

# 人権教育の「ツボ」

学校としての組織的な取組の推進に向けて  
～人権感覚育成の素地 **自尊感情を培うために**～

## <人権教育の目標の設定>

前略（人権教育の）目標設定の取組を通じ、人権に関する知的理解だけでなく、[自分の大切さとともに他の大切さを認めること]ができるような人権感覚の育成が、人権教育の基本的な目標であること、**人権感覚の育成のためには、自尊感情を培う**とともに、共感能力や想像力、人間関係調整能力等を育むことが求められること等について教職員の共通理解を図っていく必要があります。 人権教育研修会資料集 平成31年4月福岡県教育委員会 P11より

ここでは、人権感覚育成のための大切な感情である**自尊感情を培うポイント**を紹介します。

## 自尊感情を構成する4つの柱

### ①包み込まれ感覚

自分の身近にいるだれかが自分の気持ちを分かってくれているという気持ちのこと。

### ②社交性感覚

「友達が言ったことは自分はよくわかる。自分の言ったことは友達がよくわかってくれている」という心の通じ合いができてきているという気持ちのこと。

### ③勤勉性感覚

自分はコツコツと努力をする人間だという気持ちや何かやり始めたら最後までやり通すのだという気持ちのこと。

### ④自己受容感覚

今の自分が好きだとか、自分の性格が好きという気持ちのこと。

上記のような感覚を子どもが味わうことのできる場面や学習活動づくりを意図的に設定してみましょう！

上記の4つの感覚の中でも、特に学力との相関関係が高いのは、「勤勉性感覚」であると下記の参考資料には示されています。参考資料には、その感情を「**自己効力感**」として表しています。その自己効力感を育む4つの鍵が紹介されています。

## 自己効力感を育む4つの鍵

できた！  
わかった！ **達成経験を積み重ねる機会**

あんな人になりたいな！ **自己効力感を示す成長モデル**

今日のめあては  
将来の夢は **将来を見通したものから非常に身近なことまでいろいろなレベルの目標設定**

よかったね  
頑張ったね **周囲の人間からの肯定的評価**

子どもが**自身を肯定的に捉えることができる**ように、4つの鍵が実現できる機会を意図的に設定しましょう！

# 研修コラム

## 特別研修会「個別の人権課題」に関する基礎講座Ⅱ ハンセン病患者・元患者等の人権問題

新型コロナウイルス感染症に係る人権侵害が社会の問題になっている中、「ハンセン病の人権問題が教訓化されていない」という声を聞きます。ハンセン病の歴史をたどりながら、そこから得られた教訓を考える研修を行いました。その課題と教訓を紹介します。

### ハンセン病患者等の人権問題3つの課題

KARA FULL No. 10より

#### ① 生命・健康の危機に対する混乱

- ・ 不正確な知識や誤った知識を払拭しないまま、情報を重ねていく。
- ・ 正確な情報であっても、不安や恐れにつながる部分に注目する。

#### 教訓① 正確な知識を身に付けること

- ・ 「～らしい」というあいまいな情報をうのみにしない。
- ・ 正確な情報も不安や恐れにつながることもある。その不安や恐れが差別行為にいたる可能性があることも理解する。

#### ② 無意識のすり替え

- ・ 不安や恐れから感染症そのものでなく、感染した人や関係する人を排除することで問題を解決しようとする。

#### 教訓② 思考を働かせ、自分のこととして考えること

- ・ 「みんながそうしているから」と思考停止にならない。
- ・ 排除ではなく、ともに解決を目指そうと思考する。

#### ③ 無自覚の差別

- ・ 問題を解決するための手段を問わず、また、そのことを正当化する。
- ・ 排除された側の人たちに責任を転嫁し、権利の行使を認めない。

#### 教訓③ 「自分の大切さとともに他の大切さを認めること」

#### ができるような人権感覚を育成すること

- ・ 「よかれと思って」という自分よがりにならない。

# I note....



発行 京築教育事務所人権・同和教育室

## はじめに

### 「光は闇の中を輝く」

上記は、第4回県民講座の講師NPO法人抱撲の理事長 奥田知志氏の言葉です。闇を抜けて、はじめて光が訪れるのではなく、闇の中にはすでに光があるということ。つまり、どのような状況においても希望の光は存在するという事です。コロナ禍に伴う人権侵害が社会問題となっています。その影響が学校にも及んでいます。

しかし、このような状況においても、目を凝らせば、子どもが相手を思いやり、助け合い、共に生き、共に学ぼうとする姿が様々な場面に表れています。この姿こそ、「光」なのではないでしょうか。そして、「自分の大切さとともに他の大切さを認めること」ができるような人権感覚が培われた姿ではないでしょうか。このような姿を見出せる力、そしてそのような姿をさらに発揮できるように支援できる力が私たち教職員に求められていると思います。

今号は、人権が尊重される環境づくりをテーマに構成しています。人権教育推進の一助にさせていただけると幸いです。

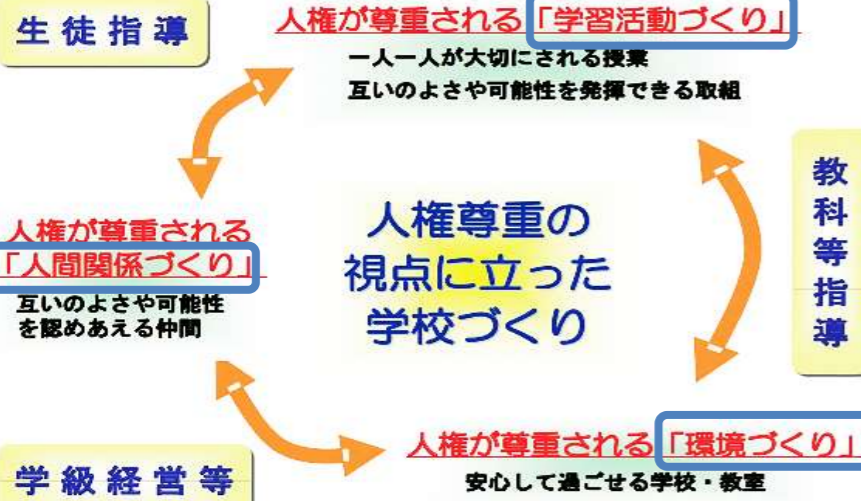
### 「I note あいのて(25号)」のメニュー

25号は、人権が尊重される環境づくりについての特集です。

- ◇人権教育のツボ・・・自尊感情を培うために
- ◇人権が尊重される環境づくり・・・教職員の働きかけ編
- ◇研修コラム・・・「個別の人権課題」に関する基礎講座Ⅱ「ハンセン病患者・元患者等の人権問題」より

# 人権が尊重される環境づくり～教科等の指導における教職員の働きかけ編～

子どもが安心して過ごせ、学べる環境づくりに向けて



上図は、人権尊重の視点に立った学校づくりを進める上で大切な「3つの『づくり』」を示しています。  
今号は、人権が尊重される「環境づくり」の中の、特に、「教室環境づくり」についての事例を紹介します。

人権教育研修会資料集 P9 (福岡県教育委員会 平成31年4月)

## 一単位時間の教科等指導の教職員の働きかけ(例)

子どもの学習意欲や習熟の度合いを把握し、課題を複数準備したり、ヒントカードを与えたりする等の支援の工夫を

**机間指導** では、結果にこだわらず思考過程や学習過程を認める言葉かけを・・・

(例)

- なるほど! そのように考えたのですね。ぜひ、みんなに紹介したい考えです。(考えや発想のよさ)
- 図を使った説明がすごく分かりやすいですね。(表現のよさ)
- お互いにアドバイスをし合い、学び合う姿がとても素晴らしいですね。(学ぶ姿勢のよさ)

**自力解決の場面** では、つまづきを想定した支援の工夫を・・・

今日の学習課題だと、子どもたちはきっとA, B, Cの3つのパターンのつまづきが予想できるな。  
Aパターンの子どもには、半具体物での操作活動を  
Bパターンの子どもには、線分図入りヒントカードを  
Cパターンの子どもには、○○という助言を

(困っている子どもへ) Bさんは、この考えのあらわし方に悩んでいるんだね。このヒントカードを使って考えてみてはどうか。

これなら、できそうだ。ますますやる気がわいてきたぞ。

教職員の意図と異なる考えを切り捨てず、一人一人が自由に発言できる雰囲気づくりを

**全体交流の場面** では、誤答を大事にする習慣づくりを

(算数科の授業場面において)

1+0.3は・・・0.4?です。 えっ!?

先生は、Aさんが「0.4」と答えたこと、すごくわかりますよ。先生と同じように、「わかる」という人いると思いますよ。みなさんは、どうですか?

わたしも、最初「0.4かな」と思っていたよ。だってね・・・

先生は、間違ったときや周りどちがった考え方も大事にしてくれるから安心して発表できるな。

友だちの発言や作品等のよさに気付き、学び合おうとする態度を育てる活動の工夫を

**グループ交流の場面** では、思考を可視化したり、操作化したりできるような学習活動の工夫を・・・

互いの考えが交流できる話合いにしたいな・・・

この話合いは、思考ツールの○○を使って進めていきます。  
<共に学び合うための思考ツールの例として>

- 考えを分類する「X,Yチャート」
- 考えを関連付ける「イメージマップ」
- 考えを構造化する「ピラミッドチャート」等

全校でしたい  
学年でしたい  
学級でしたい

Yチャートの例「6年生を送る会に向けて」

友だちと学び合うことで、別の考え方があることに気付いたよ。みんなと学び合うことって楽しいな。

## さらに、授業等で配慮したい人権教育の視点(教職員の関わり)

学校の教育活動全体を通じて行う、次のような教職員の働きかけが安心して過ごせ、学べる環境をつくれます。

- 子どもの呼名は、不公平感のない適切な呼び方を  
※子どもによって異なる呼び方が不公平感等を与えていないか  
「〇さん」、「〇ちゃん」、「〇〇! (呼び捨て)」等
- 机間指導の仕方は偏りなく、意図的、計画的な実施を
- 学習活動等の時間配分や開始・終了の周知については、教職員が責任を持ち、自らの判断で対応を
- 承認、賞賛、励ましの言葉かけや個に応じた改善方法等の提示を
- 子どもの発言に対して、目を見て、最後まで聴く等の「傾聴」や「共感」の姿勢を

参考: 第三次とりまとめ 平成20年4月

## 教科等の指導以外での教職員の働きかけ(例)

異なる意見や考えと出会い、「新たな気付き」を生むような活動の工夫を

朝の「教師の話」の場面で、学校生活に関わる課題を取り上げたり課題を自分事として捉えさせる問いかけをしたりする工夫を

「自他を大切にしたい関わり方を考えること」をテーマに話をしよう。「あおぞら2」が使えるかな。

(スライドを示して) みなさん、これは、SNSでトラブルになった例です。

明日、試験が終わったら何して遊ぶ?  
どこかに行こうと思うけど...  
試験勉強中だから...また明日話すね!  
みんなと遊びに行きたくない?  
あおぞら2「すれちがう思い」より

なぜ、これでトラブルになるのかな? ペアでその理由を考えてみましょう。

もしかして、「行きたくない?」のところを否定的に受け取ったんじゃないかな。

私もそう思ったよ。これではかん違いしてしまうかもしれないよね。

この例のように気持ちがすれちがわないためには、どうすればよいでしょうか。

## Q:教室環境とはなんですか?

A: 教室環境とは、人として調和のとれた発達をしていくことに必要な**人的、物的な環境**のことです。教室環境は、子どもに大きな教育効果をもたらします。特に**学級担任には、子ども一人一人を生かし、子どもが楽しく、明るく学習し、生活ができる心理的環境**をつくるのが求められています。

一人一人の大切さが認められ、安心して過ごせ、学べるような**心理的環境**をつくるには、「**教職員自身が人的環境**」であることを意識すること、いわゆる「**隠れたカリキュラム**」を意識して教育活動を行うことが大切です。

## Q:心理的環境をつくる教職員の働きかけはいつするのですか?

A: 教育活動全体を通じて行います。  
教職員の働きかけは、子どもにどのような影響を与えるかを考えた上で、意図的、計画的に、しかも適切に働きかけることが重要です。

まさに、一日の学校生活のすべてが、人権が尊重される「環境づくり」の場と言えます。その中でも学校生活の大半を占める**教科等指導は、意図的な働きかけができる機会**が多くあります。

## Q:教科等の指導の際の働きかけのポイントはありますか?

- A: 子どもに次のような実感をもたせることです。
- 「授業に参加している」という実感がもてるように
  - 「自分が受け入れられている」という実感がもてるように
  - 「共に学び合う仲間だ」という実感がもてるように

参考: 若い教師のための教育実践の手引 P106 P161(令和2年度版)

授業に参加している」という実感

自分が受け入れられている」という実感

共に学び合う仲間だ」という実感

共に学び合う仲間だ」という実感